

平成 26 年度  
学校関係者評価報告書

学校法人 古沢学園  
専門学校福祉リソースカレッジ広島

平成 27 年度の学校関係者評価委員会を 7 月 21 日及び 9 月 16 日の 2 回開催し、「平成 26 年度自己点検・評価」（別添）に基づき学校関係者評価委員と本校担当教員とで質疑応答・意見交換の結果、学校関係者評価委員の評価は次のとおりとなった。

1 学校関係者評価委員会開催日時

- ・ 1 回目 平成 27 年 7 月 21 日（火） 15:30～17:00
- ・ 2 回目 平成 27 年 9 月 16 日（水） 15:25～16:50

2 開催場所

専門学校福祉リソースカレッジ広島

3 参加委員等

○ 学校関係者評価委員 = 4 名

小代 桜（企業等の役職員～特別養護老人ホーム施設長）

吉田 晴彦（企業等の役職員～特別養護老人ホーム事務長）

畠山 護三（卒業生保護者）

吉原 直樹（卒業生）

○ 本校の委員会担当教員 = 3 名

三藤 賢二（校長）

山口 浩二（副校長）

藤井真理子（学生部担当教員）

4 学校関係者評価委員の評価結果（意見・質問は評価委員、回答は担当教員）

(1) 教育理念・目標

【意見】

- ・ 教育理念・目標は学校法人として明確に定められており、心身に植え付けられたと感じている卒業生も数多くいると思う。
- ・ 「②今後の改善方策」欄の中に、“教育理念や育成人材像を学生は勿論のこと保護者に対しても周知していく機会を設ける必要がある”と記されているが、介護そのもののニーズについても保護者にしっかり周知させる必要があるのではないか。

**【質問】**

- ・教育理念や目標等をしっかりと学生に伝えるのは難しいと思うが、具体的にはどのように教えているか。

**【回答】**

- ・江田島研修や三瓶研修の際、理事長が学是の「心技一体」や三訓五戒等を具体的事例でもって説明するとともに、学生にも大声で唱えさせている。

(2) 学校運営

**【意見】**

- ・運営方針とか情報公開など、学校運営は基本的には明確になっていると評価している。

**【質問】**

- ・業務分掌の自己評価が（やや不適切…2）となっているが、何がやや不適切なのか。

**【回答】**

- ・昨年度までは広報担当の教職員がいたが、今年度は異動となり他の教職員が広報を兼務することになったことが主な理由である。

(3) 教育活動

**【意見】**

- ・授業評価の実施・評価体制の自己点検については、「やや不適切」と評価されているが、学園や学校の管理者が授業の様子を見て回っている学校もある。時折、教員に指導・アドバイスをすることもある。こうした指導の仕方も参考にしては如何か。また、校内における研究授業も実施してみても如何だろうか。

(4) 学習成果

**【意見】**

- ・「①課題」の欄に、“卒業後に関する情報不足があるとともに、就職先施設の詳しい情報にもやや欠けている点がある。”と記されているが、そのためには、卒業生の就職先施設からの情報収集とその情報をリストとし

で残しておくことが大事ではないか。

- ・「②今後の改善方策」に“卒業生も活動状況やその評価等を卒業生自身や施設関係者等から幅広く情報を収集していくこととする。”と記されているが、この点についても同様に収集した情報を記録に残しておくべきであろう。

#### (5) 学生支援

##### 【意見】

- ・7の項目（高校等との連携による職業教育の取組）に関しては、「やや不適切」との自己評価になっているが、会場ガイダンスや学校での説明会など積極的に参加・説明を行ってきており、低すぎる評価ではないか。

##### 【質問】

- ・どうして、こんな低い評価になったのだろうか。

##### 【回答】

- ・以前はあった高校での授業（講師派遣依頼）がなくなってきたことが、評価低下の要因と考えられる。

#### (6) 教育環境

##### 【意見】

- ・特になし。

##### 【質問】

- ・「②今後の改善方策」欄に、“施設のバリアフリー化にも配慮していく必要がある”と記されているが、これまでの学生に何か支障があったか。

##### 【回答】

- ・自らの大きな傷害治療を通じて介護の必要性を強く感じ、義足で入学してきた学生が過去にいたが、体力十分で階段も平易に登り降りするなど、これまで特に大きな支障はなかった。但し、介護福祉士養成施設としては、そうしたことへの配慮も必要ではと考えている。

#### (7) 学生募集

##### 【意見】

- ・自己評価に対する意見は特にないが、介護施設側としても、高校の進路

指導の先生が介護福祉の意義を就職希望の高校生にしっかり伝えてもらいたい。

**【質問】**

- ・高校訪問の際における高校側の対応はどのようなものか。
- ・保護者が介護のイメージを悪く感じており、子どもにもあまり勧めていないようであるが。

**【回答】**

- ・高校によって対応の仕方に差はある。熱心にこちらの説明を聞いてもらえたり、積極的質問をする高校もあるが、学生の進路先（就職希望者の多い高校、大学進学希望者の多い高校等）により、その差はおのずと生じてくるようだ。オープンキャンパスやガイダンスに参加したり、資料請求をしてきた高校生の在学高校には積極的な訪問を行っている。
- ・介護の世界のイメージアップについては、国としても各種対策が検討されている。保護者を含め、介護の世界への関心を高める策を計画しているようだ。

(8) 法令の遵守

**【意見】**

- ・特になし

(9) 社会貢献・地域貢献

**【意見】**

- ・この学校の学生は、かなりボランティア活動に参加していると評価する。

**【全体としての意見】**

- ・教育理念・目標から社会貢献・地域貢献までの9項目には、それぞれ更に細かな評価項目も組み込まれていて、その評価項目を合計すると全部で51項目あるが、「適切…4」が4つで8%、「ほぼ適切…3」が82%、「やや不適切…2」が10%となっていて、「適切」よりも「やや不適切」の方が少し多い自己点検・評価となっている。

しかし、評価委員としては「適切」がもっと多くてもおかしくないと評価する。というのは、学校運営の1及び2（規則、規程等）に関しては、い

ずれも学校法人として、きちんと設定されていると判断するからである。  
5のコンプライアンス体制も同様であるとみる。

また、学生支援の7（高校との連携による職業教育）の自己評価は「やや不適切…2」となっているが、もっと引き上げてよいのではないかとみられる。法令の遵守の項の2（個人情報保護対策）も、何ら不具合もなければ、「適切…4」としてもよいはずだ。

今回の各項目評価は、全ての教職員からの回答を平均化して付けられた評価点であるが、教育理念や学校運営などや、その業務内容の詳しい実態を熟知してない教員もいるはずである。その評価は果たして正しいであろうか。単なる平均値ではなく、その業務に詳しい教職員の評価を重視することも大事ではなかろうか。

以上

# 平成 26 年度 自己点検・評価

専門学校福祉リソースカレッジ広島

## 1. 教育理念・目標

	評価項目	適切…4 やや不適切…2	ほぼ適切…3	不適切…1
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2 1
2	学校における職業教育の特色はあるか	4	3	2 1
3	介護人材のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2 1
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2 1
5	各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2 1

### ① 課題

・学校法人古沢学園としての建学の精神「心技一体」をもとに、“確かな知識と技術”“豊かな感性”をもった介護福祉士の育成を図っていくことを養育理念・目標としているが、それが充分達成できているとは必ずしも言えない。それが課題である。

### ② 今後の改善方策

・教育理念や育成人材像を、学生は勿論のこと保護者に対しても周知していく機会を設けていく必要がある。

### ③ 特記事項

--

## 2. 学校運営

	評価項目	適切…4 やや不適切…2	ほぼ適切…3	不適切…1
1	運営方針・事業計画・規則等が明確にされ、有効に機能しているか	4	3	2 1
2	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	3	2 1
3	総務・財務等の意思決定システムは整備されているか	4	3	2 1
4	業務分掌は適切か	4	3	2 1
5	コンプライアンス体制は整備されているか	4	3	2 1
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2 1
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2 1

① 課題

- ・業務分掌については、教職員にとってあまりに加重とならないような適切な分担を図ることが課題となる。
- ・エラー発生時に即応できるような情報システム等に詳しい職員がいない。姉妹校からの応援はあるが、緊急時に対応できない現状にある。

② 今後の改善方策

- ・業務分掌については各教職員の的確性ととともに、担任としての業務負担や時期的な集中業務があることにも配慮した校務分掌に配慮していく必要がある。
- ・情報システムについては機器の刷新にも配慮しつつ、緊急時には引続き姉妹校の協力支援を得ていくこととする。

③ 特記事項

- ・本校は、大学や数多くの専門学校等を所有する学校法人古沢学園の姉妹校の一つであり、財務に関しては評価項目として挙げていない。

3. 教育活動

	評価項目	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
1	教育理念に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
2	業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
3	学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
4	実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
5	関連分野の企業等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
6	関連分野における実践的な職業教育(実習等)が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取入れているか	4	3	2	1
9	成績評価、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
10	資格取得等に関する指導体制は、カリキュラムの中で体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
12	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力・資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
13	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 課題

- ・学生に対して、より一層実践的な教育が行えるよう、教員の企業(施設)研修等実務研修の機会を更に増やしていくことが必要課題の一つである。
- ・授業に対するアンケート調査は一部行われてはいるが、評価体制はまだできていない。



## ② 今後の改善方策

- ・ 授業評価については、学生も含めた他者評価実施に向けた体制確立を図っていく必要がある。
- ・ 科目表やシラバスで明確にはなっているが、関連性がある教科担当間の連携、進捗状況等の確認等、教育方法の工夫・開発に努めていきたい。

## ③ 特記事項

- ・ 介護施設での教員実務研修を平成 26 年度には新任教員を対象に行った。新年度は、できるだけ数多くの教員実務研修を計画的に実施する方針である。

## 4. 学習成果

	評価項目	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
1	就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
2	資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
3	退学率の軽減が図られているか	4	3	2	1
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
5	卒業後のキャリア形成効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

### ① 課題

- ・ 就職活動に対する緊迫感が薄い学生がおり、平成 26 年度卒業生の就職率は 100%に至らなかった。学生への意識付け等を含め、全教職員が共通認識する必要がある。
- ・ 卒業生に関する情報不足があるとともに、就職先施設の詳しい情報にもやや欠けている点がある。

### ② 今後の改善方策

- ・ 就職活動に対しての指導は、1 年生の時からその意義・必要性等を徹底させていくこととする。
- ・ 卒業生の活動状況やその評価等を、卒業生自身や施設関係者等から幅広く情報を収集していくこととする。

### ③ 特記事項

- ・ 平成 26 年度卒業生の中には現段階でも介護施設への就職活動を行っている者もいる反面、就職活動をする意欲のない者も数名いた。それは委託訓練生であった。

## 5. 学生支援

	評価項目	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
5	学生の課外活動に対する支援は行われているか	4	3	2	1
6	保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
7	高校等との連携による職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1
8	卒業生への支援は行われているか	4	3	2	1

### ① 課題

・問題があるときなど個別に密なる連携を図ってはいたが、担任として全般的に深い連携が取れていなかった点が一部ある。就職・経済状況・健康管理・卒業後指導なども、全て学生との在学中の結びつき度合が影響する。

### ② 今後の改善方策

・学生や保護者との結びつきを深くしていくためには、学生・保護者との報告・連絡・相談を密にとることが不可欠である。担任だけでなく、学校全体で一人ひとりを支援しようとする意識を持つよう努めていく。

### ③ 特記事項

・介護施設等との連携はこれまでも継続しているが、高等学校との連携による職業教育は今一つ不足している。高校生に対しては、これまでも職業教育のためのガイダンス、体験授業、学校見学会等を行ってきいているが、実施回数をもっと増やすなど、高等学校との連携をより強化していくべきであろう。

## 6. 教育環境

	評価項目	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
3	防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

### ① 課題

・教育に必要な設備等はすべて整備されてはいるが、校舎建設後既に20年以上経過しており、現状維持だけでなく施設・設備の改善・修正も必要ではなかろうか。

② 今後の改善方策

・ 介福祉士養成専門学校にとって、介護福祉に欠かせない施設のバリアフリー化にも配慮していく必要がある。

③ 特記事項

7. 学生募集

	評価項目	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
1	学生の募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
2	学生募集活動において、教育効果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
3	学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

・ 募集活動は適正に行っていると思うが、オープンキャンパスや入学志願者が年々少なくなっている中、いかに応募者を増やしていくかが大きな課題である。

② 今後の改善方策

・ 高校訪問時期、PRの仕方、ホームページ掲載方法、パンフレットの企画編集等々、数多くの人に印象づけられるような効果的なアピール方法を更に検討していく必要がある。

③ 特記事項

・ 介護福祉士という人材が如何に求められているか、またその職の社会的価値観等をもっと高等学校の進路指導の先生方に理解してもらいたい。

8. 法令の遵守

	評価項目	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3	2	1
4	自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

- ・自己評価はこれまでも行ってきたが、職業実践専門課程におけるガイドラインに沿った自己評価は今回が初めてであり、今後より厳密な自己評価や関係者評価が課題となる。

② 今後の改善方策

- ・今回の自己評価に対する学校関係者評価委員による学校評価結果を重く受け止め、活かしていくこととする。

③ 特記事項

- ・昨年度の自己点検・評価結果を公表しているが、平成 26 年度も学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえて公表することとしている。

9. 社会貢献・地域貢献

	評価項目	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

- ・地域活動、ボランティア活動にこれまでも取り組んできてはいるが、更にもう少し貢献し、地域に密着した学校になれるとよいと思う。(施設、社協、町内会、地域にある学校等)

② 今後の改善方策

- ・地元地域で介護に関わっている方たちのニーズが把握できるよう、日ごろから地域との連携を更に深めていく必要がある。

② 特記事項

- ・本校では日本レクリエーション協会が行っている全国一斉キャンペーン「あそびの日」に例年参画し、5月下旬の土日2日間、地元の児童を主対象に学校内で「あそびの日」を開催している。
- ・地元社協等主催のボランティア活動には学生たちも積極的に参加してきている。